

第417回 (平成11年7月13日)

1. 超音波照射によるヒアルロン酸の低分子化
薬品試験部 宮崎玉樹
2. 酵素処理カンゾウの甘味成分について
食品添加物部 劉宏民
米谷民雄
3. 新規麻薬2C-B及び代謝物の血液、尿、毛髪への分布について
薬品部 坂本知昭
中原雄二
4. p53による組換え修復制御と染色体安定化機構
変異遺伝部 本間正充

第418回 (平成11年9月14日)

1. P53欠失マウスを用いたベンゼン暴露による発ガン研究
毒性部 川崎靖
2. ラット28日間反復投与試験法“OECD Guideline 407 enhanced”確立のためのFlutamideを用いた予備的検討
病理部 豊田和弘
3. DHPNを用いたラット鼻腔二段階発癌モデルにおけるxylazineとその代謝物2,6-dimethylamineの鼻腔腫瘍プロモーション作用の検討
病理部 梶谷高敏
三森国敏
4. 天然保存料の有効成分
食品添加物部 杉本直樹
5. 遺伝子型に基づいた新しい突然変異検出法の確立とその応用
変異遺伝部 鈴木孝昌

第419回 (平成11年10月12日)

1. Spindlepoisonによる遺伝子突然変異誘発機構
変異遺伝部 百瀬真希
本間正充
林真
2. γ 線照射PLLAの骨分化に及ぼす影響
療品部 伊佐間和郎
3. 天然着色料中の主色素成分及び不純物の分析
食品添加物部 佐藤恭子

第420回 (平成11年11月9日)

1. 療品部におけるネットワークコラボレーション
療品部 伊佐間和郎

2. 天然添加物酵素処理ルチン(抽出物)及び酵素処理イソクエルシトリンの成分分析
食品添加物部 秋山卓美
3. 亜硝酸と抗酸化剤の複合投与によるラット前胃への影響
病理部 宮内慎
西川秋佳
広瀬雅雄
4. Xylazineのラット甲状腺発癌プロモーション作用とそのメカニズム
病理部 安原加壽雄
5. 過去の毒劇物事件等に関する調査と分析
化学物質情報部 山本都

第421回 (平成12年2月8日)

1. 薬剤反応性の個人差に関連する遺伝子多型について
薬理部 小澤正吾
2. 遺伝子解析技術の進歩とToxicogenomics
変異遺伝部 鈴木孝昌
3. 遺伝子の一塩基多型とPharmacogenomics
国立小児病院 小児医療研究センター
小児薬理研究部 辻本豪三先生
4. ヒト試料の取扱倫理
変異遺伝部 増井徹

第422回 (平成12年3月14日)

1. 上皮細胞の創傷治癒機構の解析: 増殖停止関連遺伝子eti-1の構造と機能
変異遺伝部 増井徹
高田容子
2. ラット28日間反復投与毒性試験法(OECD TG407)を基礎とした内分泌かく乱物質検出法の確立-17 α -メチルテストステロンを用いた予備的検討
病理部 中村英明
今沢孝喜
広瀬雅雄
3. レスベラトロールのDNA切断活性
有機化学部 福原潔

支 所 例 会

第164回(平成11年6月22日)

1. 薬用生物資源のリーシュマニア症への活用に関する研究

薬品試験部 小出 達夫

2. 食品中フタル酸エステル類の試験法の検討

食品試験部 津村 ゆかり

3. HPLCによる農作物中エマメクチン(殺ダニ剤)及びその類縁化合物の一斉分析法の検討

食品試験部 吉井 公彦

第165回(平成11年9月28日)

1. 天然伝承薬物が示す生体調節機能への科学的アプローチ～トウダイグサ科Euphorbia属植物中のタンニン成分～

食品試験部 天倉 吉章

2. ラット胎児の性分化に及ぼす可塑剤di-n-butylphthalateの影響

生物試験部 江馬 眞

3. ラットにおけるトリブチルスズ妊娠初期投与による胚致死作用:トリブチルスズの脱落膜反応に与える影響

生物試験部 原園 景

第166回(平成11年10月26日)

1. 医薬品分析における試験所間比較による技能試験ー平成10年度の薬剤師会検査センター等52機関における実施結果ー

薬品試験部 四方田 千佳子
田頭 洋子

2. 培養ラットシュワン細胞におけるポリオール経路の動態

薬品試験部 前川 京子

3. 5種アゾ系タール色素中の未反応原料, 反応中間体及び副成色素のスクリーニング法の検討

食品試験部 辻 澄子

第167回(平成10年12月21日)

1. 酸性多糖とドキシサイクリンによる複合体形成

薬品試験部 宮崎 玉樹

2. 合成着色料のタンパク質に対する光増感作用に関する検討

食品試験部 石光 進

3. 大豆及びその加工食品中のイソフラボノイド含量及びこれら的大豆由来食品より算出した日本人のイソフラボノイド1日摂取量について

食品試験部 中村 優美子

第168回(平成12年1月25日)

1. 日局一般試験法(理化学的試験法)改正の動向

支所長 岡田 敏史

2. 生物検定法の理化学的試験法等への代替とその局方への取り込み

薬品試験部 谷本 剛

3. HPLCによるベンタゾン、イナベンフィド及びフルスルファミドの簡易・一斉分析法

食品試験部 外海 泰秀

4. 遺伝子の制御領域の外來オリゴヌクレオチドとの三重鎖形成能ー遺伝子治療の一方法としてー

生物試験部 田中 寿一

第169回(平成12年2月22日)

1. TitrationCalorimetryによる脂質ーアポリポ蛋白質相互作用の解析

薬品試験部 斎藤 博幸

2. ヒトメラノーマ細胞に対するインターロイキン1の増殖抑制作用の解析(第4報)ーCdc2活性抑制機構およびサイクリンE/Cdk2下流の細胞周期制御因子についてー

生物試験部 村井 敏美
前田 秀子

3. 培養NCマウスケラチノサイトにおけるiNOSの発現に関する研究

生物試験部 天野 博夫

特別講演会

- 11年7月16日(金)
うま味感受性ニューロンとその生物学的意義
—ERATO研究から—
味の素(株)中央研究所基盤研究所長
科学技術振興事業団鳥居食情報調節プロジェクト
(ERATO)代表 鳥居邦夫
- 11年7月23日(金)
“Novel Plant Allergens”
Head, Laboratory of Immunobiology, National Public
Health Institute, Finland
Research Professor Dr. Timo Palosuo
- 11年7月27日(火)
Current Work Priorities of the OECD's
Current Work Priorities of the OECD's Environmental
Health and Safety Research
Lesley Onyon, BSc., MSc (Tox)
- 11年8月31日(火)
ER beta- a new dimension in understanding of estrogen action
Chairman, Department of Medical Nutrition, Director,
Center for Biotechnology, Karolinska Institutet
Professor Jan-Ake Gustafsson, M.D., Ph.D
- 11年11月9日(火)
細胞接着によるサイトカイン産生とアポトーシスの制御
共立薬科大学 笠原 忠 教授
- 11年12月6日(月)
Estrogen Receptor Knockout Mice: Endocrine and Molecular
Phenotypes
Scientific Program Director, Chief Lab. Reprod. Develop.
Tox. National Institute of Health/NIEHS
Kenneth S. Korach, Ph.D.
- 11年12月13日(月)
Differential Interaction of the Methoxychlor Metabolite
HPTE with Estrogen Receptor α and β
Scientist II, Chemical Industry Institute of Toxicology
Kevin W. Gaido, Ph.D.
- 11年12月14日(火)
Molecular Basis of Endocrine Disruptor –Estrogen Receptor
Interactions: A Specie Comparison
Assistant Professor, Department of Biochemistry and
National Food Safety & Toxicology Center, Michigan S U
Timothy R. Zacharewski, Ph.D.
- 12年1月20日(木)
DNA損傷における塩基配列特異性とその意義(仮)
三重大学 医学部 川西正祐 教授
- 12年1月26日(水)
Pharmaceutical regulation in an ere of rapidly advancing sci-
ence
Office of Testing and Research; Center for Drug
Evaluation and Research; Food and Drug Administration
James T. MacGregor, Ph.D.
- 12年2月22日(火)
ヒトY染色体の構造と機能
徳島大学 医学部公衆衛生学教室 中堀 豊 教授

支所特別講演会

- 平成11年11月30日
「ダイオキシンによるマウス発生毒性発現機構」
広島大学医学部解剖学第一教室 山下 敬介